

平成23年度 新収蔵美術品紹介

当館では、市民の芸術文化振興を図るために、新潟市北区にゆかりの深い美術品を収集・公開しています。今年度は、平成23年10月に開催した「川嶋宣彦展-金属造形の世界-」の出品作品から、「森の歌」(川嶋宣彦作／表紙図版)を購入し、同氏から寄贈を受けた3点とあわせて、川嶋氏の金属造形作品4点を収蔵しました。



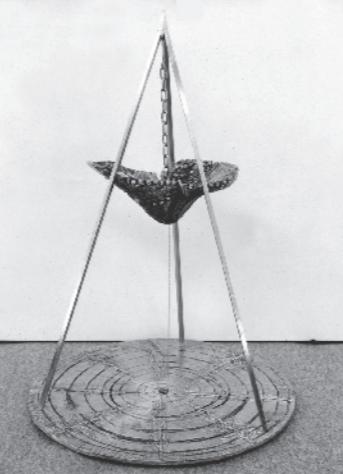
＜寄贈＞「飛跡」(2003)
(アルミニウム鋳造、大理石／61×87×28cm)

鳥の飛翔の軌跡を視覚化した作品です。自然の姿よりは、むしろ、目に見えない自然の秩序に関心を向ける作者は、この作品において、鳥の形象ではなく、飛翔そのもの、そして鳥を飛翔させる大気を表現しようと試みています。



＜寄贈＞「颶」(1984)
(アルミニウム鋳造、
ブロンズ、アクリル/
83×46×40cm)

“颶”とは、さっと風が立つさまを表す語。空気をはらんだヨットの帆の形によって、見えない風を捉えた作品です。アルミニウムとブロンズという異なる素材の組み合わせが、造形に動勢感を与えていました。



＜寄贈＞「穹蒼」(1978)
(アルミニウム鋳造、
ステンレススチール/
100×60×60cm)

“穹蒼”とは、弓形に張つて大地を覆う青空の意です。大地から見上げた天空世界が地上にあり、一筋の雨が雲からそこに垂れています。キリスト者である作者が、天地創造から着想を得た、独創的な世界です。

川嶋宣彦 略歴

1945 8月20日、北海道函館市に生まれる。
1968 北海道教育大学教育学部函館分校美術科を卒業し、新潟市に開校した敬和学園高等学校の美術教師として着任。
1972 第11回日本現代工芸美術展に出品(～2008年)。
1972 第27回新潟県美術展覧会に出品、以後継続して出品。
1972 第4回日展に出品。以後、出品を続ける。
1974 北海道教育大学教育学部函館分校美術科非常勤講師となる。
1978 社団法人現代工芸美術家協会本会員となる。
1983 新潟大学教育学部美術科非常勤講師となる。
1985 帰省を機に、支笏湖に立ち寄り野鳥と出会い、日本野鳥の会会員となる。
1991 社団法人日展会友となる。敬和学園高等学校を退職。
1991 新潟市太夫浜に残っていた工事現場事務所を工房とする。
1992 県立新潟女子短期大学生活科学科非常勤講師となる。
1994 新潟市松浜東町に工房を開設し、現在に至る。
1996 「シリーズ新潟の美術'96」(新潟県立近代美術館・新潟日報社・新潟日報美術振興財団主催)に出品。
1997 「にいがた・アート・ナウ1997」(新潟市美術館主催)に出品。
2004 「新潟の作家100人」(新潟県立万代島美術館・新潟日報社・新潟日報美術振興財団主催)に出品(第2回展('06)にも出品)。
2007 「川嶋宣彦 新潟での四十年展」(大和新潟店)を開催。
2011 「川嶋宣彦展-金属造形の世界-」が新潟市北区郷土博物館主催で開催される。

よろしくお願いします 博物館専門嘱託員の紹介



いづな ひろみ
伊豆名 皓美

弦巻松蔭先生の作品を始めとする、貴重なコレクションを多数所蔵する北区郷土博物館に採用していただいたことを幸せに感じております。甚だ未熟ではございますが、勉強を重ね、博物館発展の力になれるよう精進して参りたいと思っています。何卒宜しくお願い申し上げます。



表紙の作品

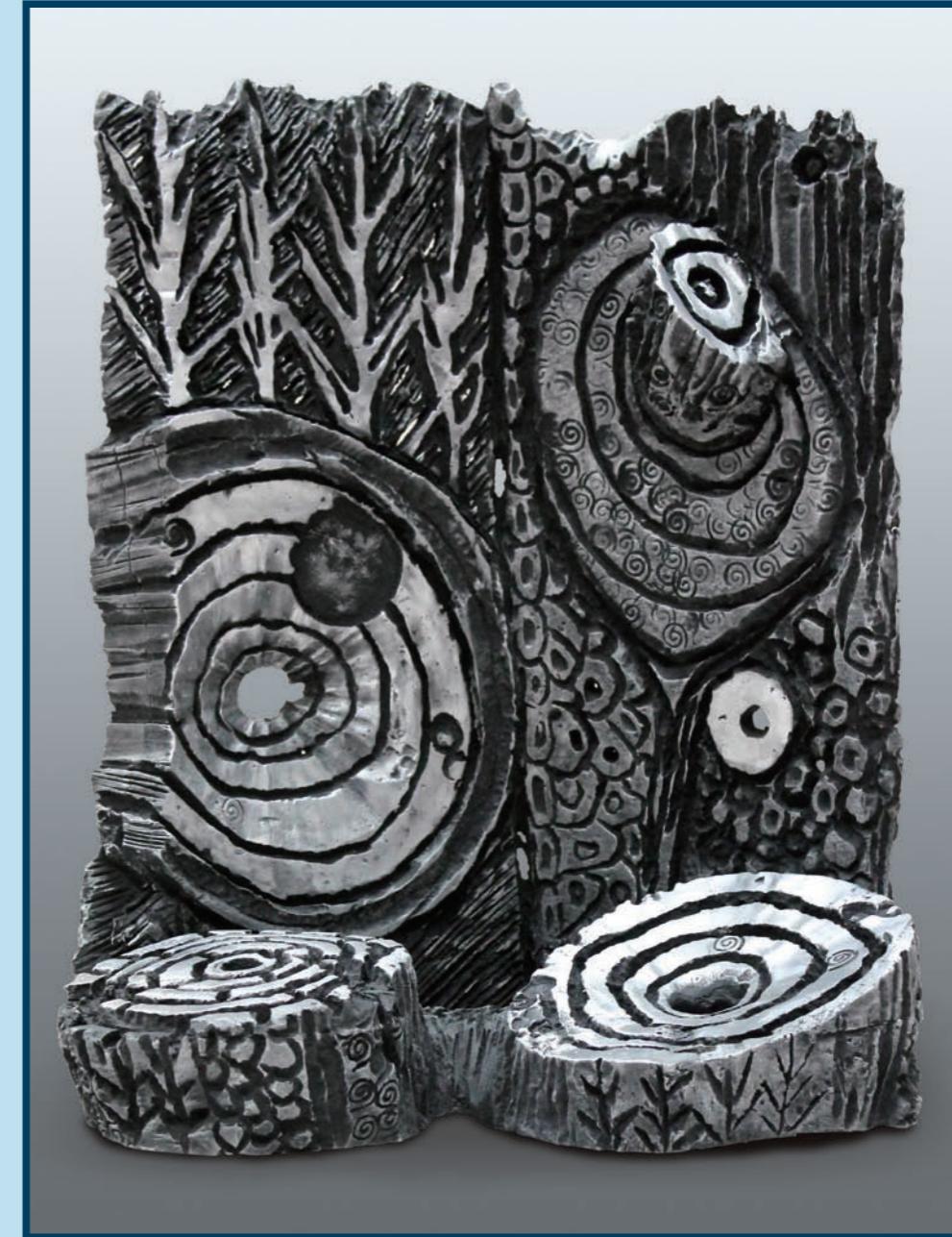
＜購入＞「森の歌」(1973)
「森の歌」は、川嶋宣彦が作家活動を始めた翌年の第28回新潟県美術展覧会で県展賞を受賞した作品です。森のさまざまなイメージで構成されたこの作品は、函館の自然のなかで樹々との対話を続けていた作者の、少年時代の記憶の中から生み出された幻想的な世界です。

COMMUNICATION LETTER 博物館だより

2012.3 第17号
新潟市北区郷土博物館
〒950-3322
新潟市北区嘉山3452番地
TEL 025-386-1081
FAX 025-388-6290

平成23年度購入美術品

川嶋宣彦「森の歌」



「森の歌」(1973)
アルミニウム鋳造
66×54×36cm

作者のことば

20代後半、県展で奨励賞受賞の翌年に県展賞を受賞した思い出深い作品である。大学を卒業し、函館から新潟に就職して数年は、創作活動ができない時期を悶々とすごしたが、そうしたなかで自分なりに制作の基盤を作りながらの作品が受賞したのでとてもうれしかった。新潟市太夫浜(現同市北区太夫浜)で構想を練り、完成させた初期の作品である。自身にとって記念碑的なこの作品を、新潟市北区郷土博物館で収蔵していただき、何か深い縁を感じている。

川嶋宣彦(金属造形家)